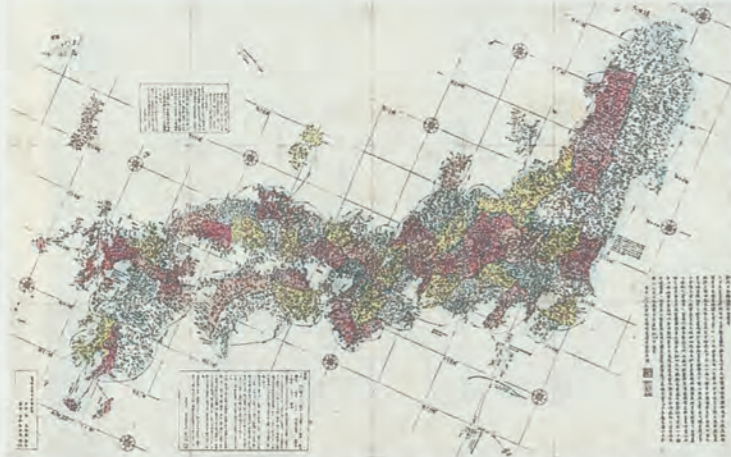


竹島明記 赤水図 広めたい

江戸時代のベストセラー



江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）が手掛けた日本地図「改正日本輿地路程全図」（1779年初版、通称・赤水図）の複製版が制作されたことになった。赤水図には、現在の竹島（島根県隠岐郡の島町）が描かれ、江戸時代に日本が竹島の領有権を確立していたことを示す証拠の一つとされている。複製版で赤水の功績を広く伝えようと、長久保赤水顕彰会（茨城県高萩市）はインターネットで資金を募るクラウドファンディング（CF）に取り組んでいる。（坂田弘幸）

複製版制作へ資金募る

幕府が発行許可

赤水は、当時の地誌や伝聞などをもとに江戸時代後期の安永8（1779）年、経緯線が入った初めて

- ① 3千枚を制作する予定の「改正日本輿地路程全図」の複製版（いずれも高萩市教委提供）
- ② 長久保赤水が1768年に作成した「改製日本分里図」。竹島（現在の鬱陵島）と松島（現在の竹島）の位置を修正した跡が残る



の日本地図である赤水図を完成させた。日本初の実測地図で知られる伊能忠敬の「伊能図」よりも42年早く、赤水図には、隠岐諸島の北西に「松島」（現在の竹島）と「竹島」（現在の鬱陵島）が表記されている。幕末まで版を重ねて一般に普及しており、当時の日本で竹島が広く認知されていたことを示す証拠の一つとなっている。



長久保赤水の肖像画

島根大法文学部の松村力修准教授（歴史地理学）によると、連合国軍総司令部（GHQ）の統治下にあった昭和22年、外務省が竹島の領有権を米国に主張した文書に赤水図の拡大図が添付されていた。

同文書には「竹島には朝鮮名がなく、朝鮮製の地図にも示されていないことに留意すべき」と書かれてい

て、竹島の日本保持が確定した26年のサンフランシスコ平和条約に影響を与えた可能性が高いという。松村准教授は「現在の竹島を初めて日本地図に書いたのは赤水の大きな功績。幕府の許可のもと赤水図が発行されていたことは国際法上、重要な意味を持つ」と高く評価している。

調査進み注目

赤水は常陸国、現在の茨城県高萩市の農家の出身。幼くして両親や弟を亡くしたが、農業の傍ら勉学に励み、水戸藩6代藩主・徳川治保に学問を講義する侍講に任用された。

江戸幕府が伊能図を国家機密として非公認としたのに対し、赤水図は庶民に広く使われた「ベストセラー」で、横版版も出回った。幕末の思想家、吉田松陰が赤水図を手に全国を旅したとの記録も残る。

しかし、既存の地図や自身の経験をもとに作り上げた編纂図だったため、沿岸部のほとんど全てを測量した実測図の伊能図に比べて精密さが劣るとされ、赤水自身の知名度も低かった。だが、赤水の関係資料の調査が進み、やがて注目されるようになった。

功績再評価を

赤水が赤水図の作成にあたって、竹島を日本の領土として記した地誌「隠州視聴合紀」（1667年）と、竹島への航路を示した「日本志山陰郡隠岐国地図」（1752年）を参照していたことも分かった。

今年3月には、国の文化審議会が赤水の地図や文書など693点を国の重要文化財（重文）に指定するよう文部科学相に答申した。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（70）は「赤水は歴史上天きな役割を果たしているのにあまり知られていなかった」と語り、重文指定を機に赤水の知名度を高めようと、顕彰会は専用サイト「CAMPFIRE」で赤水図の複製版の制作資金300万円を募るCFに取り組んでいる。期間は6月16日までで、寄付の返礼品として複製版を赤水の誕生日にあたる11月6日に発送する予定。

複製版は、赤水図の第2版を原寸大（縦84・6センチ、横128・8センチ）で再現。裏面には原図から第5版まで計6枚を掲載し、変遷を確認できるようにする。佐川会長は「赤水の功績が正しく再評価されるきっかけになれば」と話している。URLは <https://campfire.jp/projects/view/249538>

日本橋の『ぶよお堂』に長久保赤水コーナーが新設

日本橋の有名な地図専門店（株）ぶよお堂に、長久保赤水関係資料の重要文化財指定を記念して、長久保赤水コーナーを新設していただきました。絵本や赤水図のレプリカ、マンガ、現代語訳、切手、CDなどを販売していただけることになりました。〒103-0027 中央区日本橋3-18-16 ぶよお堂ビル地下2階 ☎03-3271-2410です。

郵便局からのお振り込み
郵便局からのお振り込みは、口座記号番号00380-6-9573、加入者名は、長久保赤水顕彰会です。入会していただける方は、年会費 3,000 円、ご寄付をしていただける方は、一口 1 万円です。何口でも結構です。よろしくお願いいたします。

長久保赤水顕彰会事務局
〒318-0103 高萩市大能 341 代表 佐川 春久
Eメール : haruhisasagawa@yahoo.co.jp
ホームページ : <http://nagakubosekisui.org/>

長久保赤水顕彰会は全国 534 名で活動しています（5月25日現在）。国の重要文化財指定記念を機に、会員 1,000 名を目指し会員を募集しております！また、「通年」の寄付金も募集しております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



長久保赤水

NAGAKUBO ● SEKISUI

関係資料693点が国民の財産に

祝 国の重要文化財指定が決まる



長久保赤水 自画像

長久保赤水関係資料 693 点の国重要文化財指定が決まる。この資料群は、長久保赤水の子孫にあたる複数の家などに伝来した赤水手沢の一括資料で、地図・絵画類 84 点、文書・記録類 279 点、典籍類 274 点、書画・器物類 56 点から構成される。

赤水の学問の内容、交友関係、生涯の事績を考える上で最もまとまった資料群で、江戸中後期の文化史、地図史等の学術的な研究上に価値が高い。

飛耳長目

長久保赤水顕彰会会報 第三十号
発行責任者 佐川春久

令和二年五月三十一日

国の重要文化財指定 記念号

りゅうのひかり

ときさき きよし

絵本「りゅうのひかり」

磯田道史先生も推薦！
『赤水図』に書かれた「関ヶ原の龍燈」の謎に迫る
絵・時崎清 文・夏井芳徳

赤水は、『赤水図』と呼ばれる『改正日本輿地路程全図』第2版の中に、福島県いわき市の関ヶ原の龍燈について記述を残しています。また、『東北南部から近畿圏』の地図や紀行文の『東奥紀行』、さらには、『赤水文章』の中にも、その記述を残しています。なぜ記述を残したのでしょうか？その謎に迫ります。



国際日本文化研究センター准教授 磯田 道史

赤水は、この不思議な現象を淡々と記録する。そして、あえて謎解きはしていない。そのかわり、当時の文献から、国をこえて、同様な現象がないか調べ、中国の3か所に似た光があることを指摘している。不思議をみつけて、不思議のままに楽しみ、興味をもっている。不思議な現象を無理矢理、科学らしきもので説明する必要はなからう。自然界には、人間の理解を超えた不思議がいっぱいである。赤水の時代の江戸人は、その不思議と楽しく遊んでいた。そういう心の素晴らしさを、子どもたちにつたえてくれる本である。

好評販売中
A4判変形、80ページ
定価1,000円+税

郷土の誇り「赤水」 重文決定に寄せて(上)

佐川春久

3月19日、国の文化審議 など関係資料693点につ いて、「国の重要文化財指 定が妥当である」と、文部 省が長久保赤水(1717~1801年)の代表作と して「改訂日本輿地路程 全図」(通称「赤水図」)を 重文指定(通称「赤水図」)と



長久保赤水の肖像画

長久保赤水の子孫に当たる 郷土の誇り「赤水」 重文決定に寄せて(上)

3月19日、国の文化審議 など関係資料693点につ いて、「国の重要文化財指 定が妥当である」と、文部 省が長久保赤水(1717~1801年)の代表作と して「改訂日本輿地路程 全図」(通称「赤水図」)を 重文指定(通称「赤水図」)と

江戸庶民が見た日本地図

長久保赤水の肖像画

長久保赤水の子孫に当たる 郷土の誇り「赤水」 重文決定に寄せて(上)

地図史等の研究上に学術的 な価値が高い」と評価され ている。

長久保赤水顕彰会は19 92(平成4)年11月6日 (赤水の誕生日)に設立総会 を開き、今日まで顕彰活動 を続けてきた。このたび、 「国の重要文化財指定が決 定」というニュースを受 け、さらなる活動の転換期 を迎えることができま る。

赤水については、生誕2 50年記念誌「地理学の夜 明け前」(地理13-1、1 968年)で特集が組みま れている。そこには、当時の 著名な地図研究者である秋 岡竹次郎や室賀信夫、中村 浦資にペリー艦隊が来た時

郷土の誇り「赤水」 重文決定に寄せて(下)

佐川春久

長久保赤水が手書きで製 作した「改訂日本分里図」 は、赤水の代表作、改訂日本 輿地路程全図(通称「赤水 図」)の原図といわれている。

86(昭和5)年に描かれ た。子孫である長久保氏ら が寄贈し、高萩市歴史民俗 資料館が所蔵している。

地形や地名には、胡粉に よる多くの修正痕や和紙を 何枚も重ねて書き直した跡 が残されており、赤水が考 証しては、その都度、修正し ていたことが見て取れる。

世界に1枚の手書き地図

製した。まさに、汗と英知の結晶である。

国民の財産となる(こと)が 決まった今、まさに、世界 に1枚しかない手書きのこ の地図は、必見の価値があ るだろう。

今回この国の重要文化財指 定に向けた文化庁の調査 が寄贈し、高萩市歴史民俗 資料館が所蔵している。

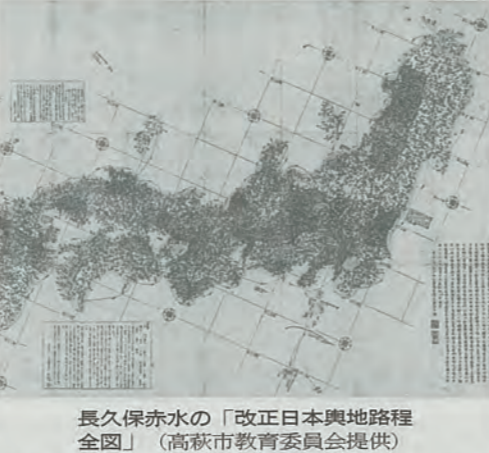
地形や地名には、胡粉に よる多くの修正痕や和紙を 何枚も重ねて書き直した跡 が残されており、赤水が考 証しては、その都度、修正し ていたことが見て取れる。

また、この地図は「安井 春海の所考」として、初め て緯度を記入した日本図で ある。奄美群島や琉球諸島 は描かれていないが、蝦夷 地の南端、対馬、朝鮮半島 南東端は描かれ、さらに日 本海には竹島と松島が描か れている。

長久保赤水 高まる評価

茨城県高萩市出身で江 戸時代の地理学者、長久 保赤水(ながくぼ・せき ずい、1717~1801 年)が近年、知名度を 上げていく。初めて実測 で日本地図を作った伊能 忠敬(いのうただか、 1745~1818年) より42年早く、情報収集 による精度の高い「赤水 図」を作り、庶民や後世 の知識人に広めた功績が 評価され始めた。

赤水は高萩市赤浜の農 家生まれで、幼い頃に両親を亡くした。親族に育つたが、学問に興味を持ち、水戸藩の学者らの下で儒学や天文学、地理学を学んだ。30代半ばで正確な日本地図を作ろうと決意し、情報収集や各地の旅を経て、52歳で初めての地図を完成。功績が認められ水戸藩主の侍講になった。赤水の地図は天文学を



長久保赤水の「改訂日本輿地路程全図」(高萩市教育委員会提供)

取り入れたことで、日本で初めて経緯と緯線が書かれ、比較的正確なのが特徴。中でも1779年の初版が完成した「改訂日本輿地路程全図」(通称「赤水図」は実用性が高く、江戸時代の庶民に広く流通した。幕末の志士を育んだ吉田松陰(1830~59年)が兄に宛てた手紙には「これが無くては不自由」と、赤水図を旅に役立てていたことが記されている。

1821年に完成した伊能忠敬の地図は、伊能自身が実際に各地を歩き歩幅で測量したことで有名。一方で赤水は自分で集めた地名などの情報を

日本地図 伊能忠敬より40年早く

高精度「世界に誇れる先人」

地図に盛り込んだため、内陸の情報も豊富だ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(70)は「友人が多く、旅人もお茶をこちそうして話を聞くなで、情報収集能力にたけていた」と強調している。

赤水の関連資料693点は、2017年に県指定有形文化財になるなど徐々に価値を評価され、国の文化審議会は今年3月、同資料を国の重要文化財に指定するよう文部科学相に答申した。

さつかに知名度を上げようという顕彰会は、赤水が地図に書き残した不思議な海上現象を元にした絵本「りゅうのひかり」を出版。縦約84センチ、横約128センチの赤水図のレプリカを発行を目指し、資金300万円をクラウドファンディングで募る。

今後、吉田松陰ゆかりの松陰神社(山口県萩市)でもレプリカが展示される見通し。佐川さんは「世界で通用する、誇れる先人の一人。地理の歴史の中に赤水図をしっかりと位置づけたい」と語り、将来的には大河ドラマ化も目指している。

明治維新エネルギーの起爆剤「赤水図」

日本地図といえ伊能忠敬を思い浮かべる人が多いのですが、伊能図は幕府により秘蔵され、実は江戸時代には庶民の目には触れなかったのです。これに対し、長久保赤水の赤水図は、江戸時代末期までの約100年間ベストセラーとなり、吉田松陰も愛用したとされています。明治維新のエネルギーは、この赤水図をもとに生まれたとも言えます。

初めて経緯線の入った日本地図を発売し大衆化

赤水は地図に天文学の知識を取り入れ、初めて経緯線の入った日本地図を発売し大衆化しました。最大の特徴は実用性です。多くの情報を収集し、学問的に考証を重ねた編集図です。若い時から和漢の天文・地理の書に精通し、木村兼葎堂や古川吉松軒など幅広い交友関係があったので、正確で詳細な地図が作れたのです。

松下村塾や全国の藩校で使われた赤水図

浦賀にペリー艦隊が来た時も、伊能図は江戸幕府の秘蔵のため、ごく限られた幕府要人しか見ることができず、明治初年まで一般人は利用できませんでした。このため、萩の松下村塾をはじめ全国の藩校で使われていたのは、赤水の日本地図、中国地図、世界地図、中国歴史図版でした。江戸時代の人々に、日本が世界のどこにあり、今自分が日本のどこに立っているかを教えてくれた地図です。幕末の黎明期に、諸外国が日本を植民地化しようとして押し寄せて来た時に、日本を救ったのが赤水図なのです。

伊能忠敬も赤水図を測量にも携帯

小宮山楓軒の「懐宝日記」には、【伊能忠敬は幕府の命令で日本地図を製作している。人に話して「私は諸州を歩き回って実測で地図を作ったが、非常に難しいと感じる。水戸の長久保赤水が居ながらにして地図を作ったことは、非常に感心する」と書いている。】さらに「江戸日記」や「測量日記」に【忠敬も赤水図を所持しており、測量にも携帯して随時参照している】とあります。

世界に通用した日本が誇れる先人、長久保赤水

長久保赤水は、明治44年6月1日に、日本地図や大日本地理志稿編集などの功績で、従四位を贈られました。時の内閣総理大臣は桂太郎でした。松平昭訓、貝原益軒、塙保己一、桂川南周、大槻玄潭、樂野彦輔などと共に、5番目に長久保源五兵衛(赤水)の名前があります。この時の追贈者は全部で12名でした。

いったい何者? 江戸の地図男!!

長久保赤水 (1717~1801)

◆国の重要文化財指定記念 原寸大『赤水図』レプリカ (両面・両面刷り)

令和2年11月6日(赤水の誕生日)発行予定!

高萩・赤水を愛する皆様へ

10万円まで

スポンサー企業名の掲載権

クラウドファンディング10万円以上の法人寄付につきましては、原寸大「赤水図」レプリカの裏面に企業名が入ります。

【裏面】

表面には、【赤水図で吉田松陰の「東北遊日記」の足跡を辿ろう!】表面には、【赤水図の裏面】を掲載。

原図、初版、第2版、第3版、第4版、第5版を比較できるA3判のレプリカです。

【制作見本】

みなさまのご協力をお願い致します

こちらに企業名を掲載させていただきます

寄付金募る! 「長久保赤水 キャンプファイヤー」で検索!!

「長久保赤水顕彰会」では、国の重要文化財指定記念の各種事業展開のため、3月29日からクラウドファンディング「CAMPFIRE(キャンプファイヤー)」において購入型寄付を募っています。「長久保赤水 キャンプファイヤー」で検索または、左のQRコードや以下のURLから直接プロジェクトページにアクセスいただきぜひご支援をよろしくお願い致します。なお、募集期間は、6月16日(火)までです。よろしく願い致します。

<https://camp-fire.jp/projects/view/249538>

CAMPFIRE